

第2節

農林漁業者等による
体験活動の促進

食に関する考え方が形成される子どもの時期に、農林漁業体験を通して食や農林水産業への関心と理解を深めることが非常に重要であることから、様々な体験活動への支援を行っている。

その一つとして、自然の恩恵や食に関わる様々な活動への理解を深めることなどを目的とし、一連の農作業等の体験の機会を提供する教育ファーム等農林漁業に関する多様な体験の取組を推進している。

教育ファーム等農林漁業体験は、自然と向き合って日々仕事をしている農林漁業者に直接指導を受けることによって、地域の農林漁業への関心や理解を深め、自然の恩恵、農林漁業者への尊敬の念、農業の多面的機能の理解、健全な食生活の実現など様々な教育的効果が期待されるものである。

これら農林漁業体験の取組を広く普及していくため、

- ① 消費・安全対策交付金による教育ファーム等農林漁業体験活動への支援
- ② これからはじめる方、既に実践している方がより効果的な農林漁業体験を提供するための『運営の手引き』を作成
- ③ どこでどのような体験ができるのかを一元的に集約した教育ファームのデータベースを作成。今後は、データベースの充実を図る
- ④ 教育ファーム等農林漁業体験の実践者などの関係者による意見交換会等の開催などを行っている。

また、各地で酪農教育ファームの取組も行われている。これは、消費者に酪農のことを理解してもらいたいという酪農家の願い、酪農体験を通じて子どもたちに食や生命の大切さを学ばせたいという教育関係者の期待、これら双方の思いが一致し、自発的に誕生したものである。平成10年、社団法人中央酪農会議の提唱により、酪農体験を通じて食と生命の教育を支援するため、酪農教育ファーム推進委員会が設立され、平成13年、酪農教育ファーム認証制度が創設された。さらに、平成17年以降、全国的な活動のさらなる普及と支援体制を整備するため、全国9地域に地域推進委員会が設立された。平成26年3月現在、全国の認証牧場数は299牧場に達している。

実際の活動では、学校側が訪問先の牧場と事前に打合せを行い、当日は参加者が実際に酪農体験に取り組む体験学習などを行っている。また、活動内容の充実を目指して、酪農家を対象としたスキルアップ研修会の開催、酪農家や教育関係者に向けた支援素材の開発、学校を舞台にした出前授業「わくわくモーモースクール」の開催、実践事例集の制作・配布等を行っている。



酪農教育ファーム活動

事例 JAの稲作り農業体験を通じた食育活動

愛知県西三河農業協同組合（JA西三河）

JA西三河は、米がどのように作られているのかを知らない子どもたちが多いので、米の大切さを知ってもらい、もっと食べてもらうために、「稲づくり農業体験」を地域貢献活動の一環として開始した。この取組は、農林漁業体験に全学年で取り組む小学校の割合を、平成28年度までに100%にする目標を掲げる西尾市の後押しもあり、平成20年度の4校から、平成25年度には16校にまで拡大している。

「稲づくり農業体験」は主として5年生の総合的な学習の時間を活用して実施し、主要な作業として、「田植え」、「かかしづくり」、「稲刈り」を体験したのち収穫した米を使った食体験までの一年間を通じた活動となっている。収穫祭では各校ごとに「もち」、「五平餅」、「巻き寿司」などを作り、自分たちで収穫した米を調理して食べることを通じて、食べ物を作ることの喜びや苦労を子どもたち自ら学ぶ場となっている。

この取組には学区のPTAや老人会が参加するケースも多く、地域が一体となった恒例行事的な要素もあり、地域住民と子ども達のコミュニケーションの場ともなっている。



稲刈り（室場小学校）



田植え（寺津小学校）